

## クルーズサマリー

1. 航海番号/使用船舶 : NT09-20/なつしま
2. 航海名称 : 平成21年度「ハイパードルフィン」試験・訓練潜航
3. 首席研究者/所属機関 : 山本富士夫/海洋研究開発機構 海洋工学センター (平成21年12月8日～12月13日)  
首席研究者/所属機関 : 古山裕喜/海洋研究開発機構 海洋工学センター (平成21年12月13日～12月14日)

4. 乗船研究者 :

(1) 2009年12月8日(追浜)～12月13日(焼津)

山本富士夫	海洋研究開発機構 海洋工学センター	技術主任
牧 哲司	海洋研究開発機構 海洋工学センター	技術主任

(2) 2009年12月13日(焼津)～12月14日(焼津)

古山 裕喜	海洋研究開発機構 海洋工学センター	グループリーダー
松本 浩幸	海洋研究開発機構 DONET	技術研究主任

(3) 2009年12月14日(焼津)～12月17日(追浜)

乗船研究者無し

5. 調査海域 : 駿河湾トラフ、相模湾、駿河湾、
6. 航海期間 : 2009年12月8日(追浜)～12月17日(追浜)
7. 調査航海概要

目的 :

「ハイパードルフィン」整備後の性能確認試験及び操縦訓練のための潜航を実施する。

実施内容と結果 :

本航海は平成21年12月8日、機構岸壁を出港し、12月17日に機構岸壁に帰港して終了した。

(1) 平成21年12月8日(追浜)～12月13日(焼津)

機構岸壁出港後、9日朝から駿河トラフにて、新替えしたアンビリカルケーブルのフリーフォール(計2回)を実施し、その後の光電気特性の計測を実施した結果、良好であることを確認した。ハイパードルフィンの性能確認試験としては、10日から12日まで相模湾初島東方沖、水深約1,250mにて、試験・訓練潜航を実施し、この水深における無人探査機としての機能を確認した。さらに、慣性航法装置を用いたマルチナロービーム音響測深機による試験データの収集を実施した。

(2) 平成21年12月13日(焼津)～12月14日(焼津)

焼津港沖にてハイパードルフィンを潜航させ、送水管に沿って航走させる操縦慣熟訓練を行い、操縦技量の向上を図った。

(3) 平成21年12月14日(焼津)～12月17日(追浜)

15日は駿河トラフにて、最大潜航深度3000mまでの「ハイパードルフィン」整備後の性能試験を行い、各機器の作動状況が良好であることを確認した。また、16日は相模湾初島南方沖にて、マニピュレータ操作訓練を行い、操作技量の向上を図った。

謝辞：本調査の遂行にあたっては、「なつしま」の請蔵船長、青木一等航海士をはじめとする乗組員の皆様、ハイパードルフィンチームの卓抜なオペレーションが不可欠でした。航海準備段階からサポートしていただいたハイパードルフィンチームならびに研究船運航部、海域調整に尽力いただいた方々に御礼申し上げます。